

宛か小さくなくては來るから、之を防禦する所の策を講じなければならぬ（つゞく）

誕生日

我國ではひよつとかすると、親の誕生日や自分の誕生日までも知らない者がある位だから、まして友人の誕生日など、覺えて居る人は恐く少からうと、思はれる、所が、外國殊に獨逸邊りでは、誕生日を祝するといふことは、中々大切なことになつて居て、朋友同志互に、よく誕生日を記憶して居つて、其日になると、いろ／＼趣向をこらして送物をする、だからして、日本の留學生などがたま／＼友人の誕生日などを知らないで澄まし込んで居ると、彼の國人は、大變に之を不思議に思ふのも無理でない。

此誕生日につきて面白いことは、各自の家庭で親の誕生日に小供が夫々趣向を凝らして祝意を表するのである。或ひは短かい詩を作つたり、美しい文章をかいたりして親に捧げる者もある、或ひは親の好きな薔薇の枝で樹架を作つて送る者もある、或は數週間前からピアノの一曲を稽古して其當日に之を奏しようとする少女もある、或ひは其當日の前で朗讀せんために美しいフランスの詩を暗誦する少年もある、親を愛する真情からの此贈り物や、己の才能を表はす所の質朴なる此趣向が親に取つては如何ばかり嬉しいことであらう、聞く許りでも、既に其當日の家庭の如何に趣味深きか、察しられる、此美風は、どうか我國にも移して、父の誕生日、母の誕生日、祖父母の誕生日、子供らの誕生日と、一年中の日を定めて、これ

を一家内の祝日にして互に祖祝し、相樂しむ様に
したならば、子供教育の上にも少からぬ影響を興
へることになると思ふ。

某外國人曰く、日本人は家の内ではまことに行儀かやかま
しくて、外へ出ると往來でも、公會の場所でも、まことに
不作法なのは不思議です。

昔いろは料理

石井泰次郎

(ひ)

蟹粉球の拵方

蟹の生肉を庖丁にてたゞきて細かになし食鹽、胡椒などを、程よく入れて、丸形にまるめて、蒸籠

に入れてむすべし

肥前長崎五もく飯

かしは、或は、なまりぶしを、細末にして煮上
別に午房を細く切て、油にてわけて、煮上て、又
別に、にんじん、しひたけ、こんにやく、何れも
蒸上て皿にもるべし、さて外につゆを能かげんに
こしらへ置右の五もくを飯の上のせてつゆをか
けてくらふなり

ひしこ飯のたきやう

白きひしこをよしとす、竹べらにて骨をよく去て
鹽水にて洗ひ、ざるにあげかき、さて飯は常の如
くしかけて、飯のにえたつ時、右のひしこを入れ
てたきあげ、汁には薄醬油とて、醬油にかつを煎
汁をませたるを用ひ、加料には干瓢のこまかにき
りたる、又はしひたけのこまくを入れて煮るべ